

りんどう

1 予報（5月）の内容

病害虫名	発生時期	発生量・感染量	予報の根拠
リンドウ ホソハマキ	やや早	やや少	(1) 5月の気温は高い予報で、有効積算温度から推測される羽化始期は 平年並。 (2) 前年秋期の発生量は、平年より少なかった。(一)

記号の説明 (++)：重要な多発要因、(+)：多発要因、(±)：並発要因、(-)：少発要因、(- -)：重要な少発要因

2 防除のポイント

【リンドウホソハマキ】

- (1) まだ残茎がみられる圃場では、越冬世代成虫発生時期（県中南部で平年5月下旬から）までに残茎処理を徹底する。処理の際はできるだけ地際に近い部分から折り取り、株元まで残さないようにする。また、集めた残茎を圃場内に放置すると発生源になるので、適切に処理する。
- (2) 重点防除対象は第1世代の卵・幼虫であり、成虫または潜葉痕および食害痕（図1、2）が認められたら薬剤を散布する。県中南部での防除適期は平年6月上旬であるが、防除開始時期は年によって変動が認められることから、今後の発生予察情報等を参考にする。
- (3) 前年、アディオフロアブルを散布しても被害が目立つ圃場では、ディアナSCまたはフェニックス顆粒水和剤を10日間隔で、2回散布して防除する（平成26年度試験研究成果、平成30年度防除技術情報参照）。
- (4) 産卵の大部分は葉裏に行われるので、下位葉の葉裏までしっかり薬剤がかかるよう、丁寧に散布する。
- (5) 茎部に食入後の幼虫は薬剤防除が難しいため、生長部が萎れて曲がる被害（図3）を見つけたら折り取り、土中に埋めるなどして処分する。



図1 潜葉痕

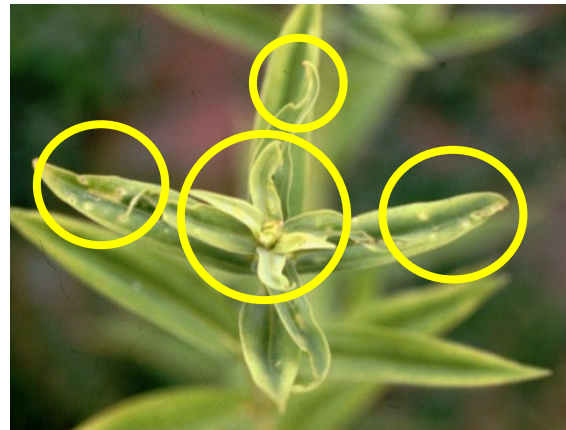


図2 生長部の食害痕



図3 生長部の被害